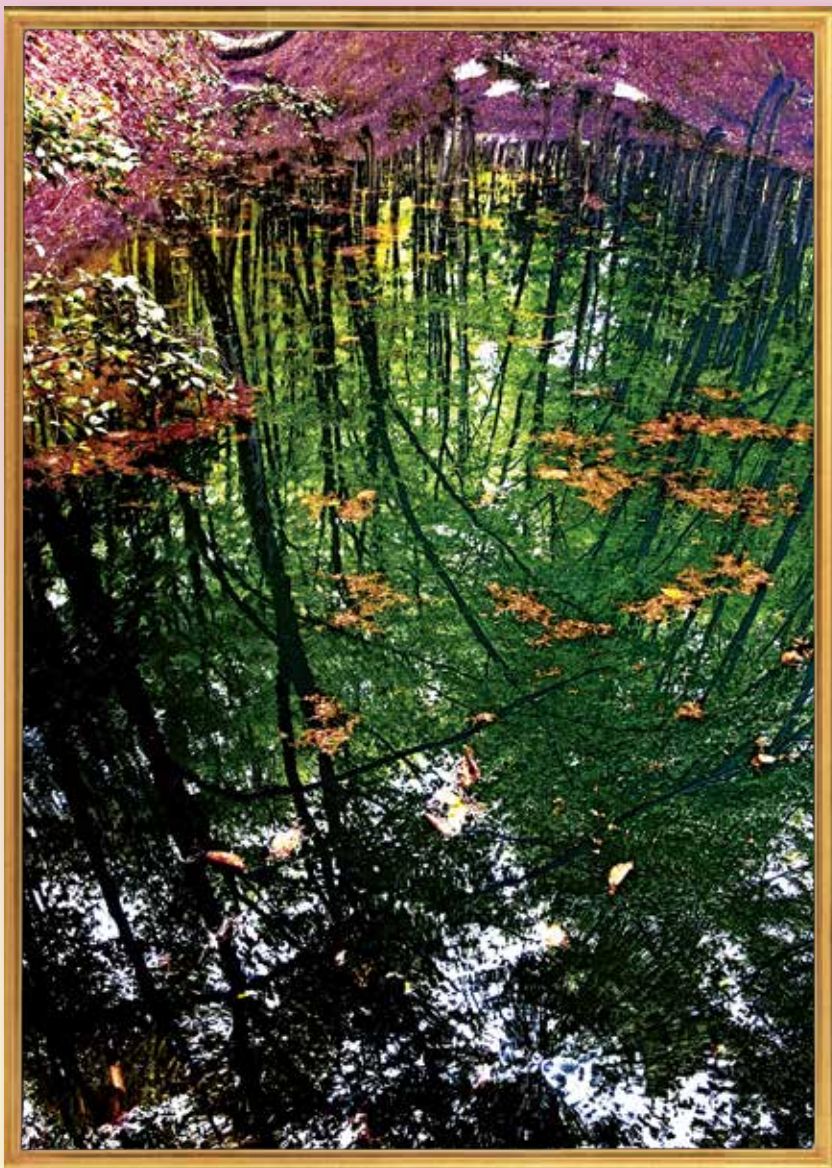


梅窓院通信

新年号

No. 74
2015/01/01

青山



第5回秋彼岸写真コンクールグランプリ受賞作品

「池鏡幽玄を誘う」

撮影:

池の鏡に新緑のブナ林の緑が映り、深い幽玄の世界に引き込まれ
 そうな錯覚に襲われる。

新潟県十日町松口、松之山温泉の近くの丘陵に樹齢約90年程の
 ブナ林が生い茂り、その姿が美しく美人林として有名です。

今年も第6回秋彼岸写真展コンクールの開催が決定致しました。
 詳細はまた後日発表致します。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

新年明けましておめでとうございます。皆様お変わりなくお正月をお迎えになられたことと存じます。

昨年は台風をはじめ自然災害が多く起きました。今年は穏やかな1年になって欲しいものです。

年末には年越しそばを食べる習慣がありますが、皆様のお宅ではいかがでしょう。家族そろっておそばを食べられましたか。

今号の散歩道では外苑前駅すぐの増田屋さんからのれん分けされた新宿歌舞伎町の増田屋さんを紹介しています。二つの増田屋さん、どちらも梅窓院のお檀家様です。

歌舞伎町といえば日本を代表する繁華街ですが、その雑踏の中、地下のお店に入るとその喧騒が嘘のような静寂で小綺麗なお店です。年越しならぬ初そばを召し上がってみてはいかがでしょう。お店の詳細は今号散歩道で紹介してあります。

さて、昨年秋の文化講演会、11回目になりましたが、講演会始まって以来の人気となり、定員を大幅に超える申し込みを頂きました。

「寺の力」と題した建築家の隈研吾先生の講演で、隈先生は新生梅窓院を設計して頂いた建築家です。世界が注目する隈先生、日本はもちろん、世界各地で手掛けた建物は数知れませんが、その中で建築物としての「寺」を演題に入れて話をされたのは初めてだそうです。寺にいる私たちだと気付きにくい寺の魅力や役割についての話となり、大変興味深い内容でした。

話は変わり、鎌倉の材木座海岸前の浄土宗大本山光明寺の話です。

昨年7月に第百十一世 台下が遷化され、10月には第百十二世として 台下が推挙されました。光明寺は関東地方における浄土宗の布教拠点となった名刹で、十夜法要が始まった浄土宗の大本山です。

光明寺の十夜法要は毎年10月に催されますが、昨年は私も数年ぶりに随喜致しました。梅窓院でも平成15年から十夜法要を厳修しています。念仏を唯一の修行とする浄土宗ならではの法要です。秋の話をするには少々早いですが、今年も1年健やかに過ごされ、梅窓院の十夜法要にぜひお参り頂けることを心より祈念しています。



仏教歳時風物詩 (28)

仏正月の話

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

新

年を迎えることはまことにめでたいことである。初春新春を迎える喜びは、物みな改まって新しく、まさにあらたまの年・あたらしき年・あらたしき年である。

それだけに行く年・去る年をきちんと送り、来る年・迎える年をしっかりと受け入れなければならない。年送り・年迎えに諸準備怠りなく、身を清く潔くして、心を正しくいたして、区切り目・節目・けじめをつけて事に当たることはおのずから当然のことである。

今回は仏正月の話をしなから、古き年をしつかりと納め、新しき年をきちんととはじめる日本人の心の伝統を尋ねたい。

仏正月とは、仏の正月とか仏の日などといい、以下に挙げる類語の季題も含めて、「新年」の部の大切な季語である。その意味合いを説明するために、仏正月に関する各地の習俗から推測した二様の理解を示すことが端的であらう。

一つは旧年行事としてのもので、十二月の特定の日に墓参りをして仏事の納めとすることである。とくにその年の内に死者を出した家などで仏のための正月祭をすることで、十二月の巳の日とか午の日など、巳の日正月・巳午の日・辰巳正月の言い方もあり、かつては

四国地方で行なわれていたという。

これに対して二つには、新年になって初めて仏を祀り、寺参り、墓参りをするということで、一般には一月十六日をその日とした。正月十六日を仏事始めとし、またこの日を正月納めの日とする考え方が底流にある。季語欄を見ると、仏の年越・仏の口明・念仏の口明・後生始め・真言始め・先祖正月・寺年始などという言葉が挙げられている。

仏正月の供え物は、餅であったり、雑煮であったり、新春正月気分の品々が普通である。また古くは盂蘭盆会の魂祭と同じような供養法であったというが、先祖祭の中心は次第に盆行事に移行してしまつたのである。

一月十六日の仏の口明は仏壇開きでもあり、広島県では鉦を叩いて拜んだ。山陰地方では念仏の口明・念仏始めといつて仏の正月を行なつた。香川県では仏の年越といい、あるいは「仏さんの口明き」なども称した。

宮城県や岩手県では一月十六日の仏の日を精進日とし、鍋釜の蓋を少しあけたり、針仕事はしないなどとした。

新潟県の後生始めは、一月十六日、この日の前日まで鉦を鳴らさないことにした。兵庫県の真言始めは一月十六日。十二月二十九日の真言終いからこの日まで、やはり鉦を鳴らさないという。大阪府では鉦納め、そして鉦起し

と呼んだ。

なお寺年始は寺正月ともいい、普通は正月四日をその日とすることが多い。

母の忌の連夜供養に仏の日

(裕彦)

一月十七日は、私の母の命日である。仏正月の例句を検索しながら作句した拙句であるが、自分の亡き母への供養の思いをこの一文の中に記させていただく失礼をお許し願いたい。

一月七日の七日正月から数えて十四日目が二十日正月である。団子正月・二十日団子・骨正月・頭正月・麦正月・乞食正月・奴正月・灸正月・とろろ正月・はつたい正月など、各地の風習によっていろいろな呼び名がある。たとえば骨正月とは、正月の最後の日、つまり一月二十日の切り上げの日、年肴をすつかり食べ尽くすのである。骨の正月・骨くずし・骨たたきなどともいう。

ものがたき骨正月の老母かな

(虚子)

高浜虚子も御母上を思つて作句されたことである。

やがて新年正月も初三十日・初晦日である。晦日正月に晦日団子を作る地方もかつては多かったのである。

(大正大学学長)

九・十・十一月の

行事報告

M・ファン・デン・ワックピアノリサイタル
11月22日(土)



文化講演会 「寺の力」 隈研吾氏
10月26日(日)



秋彼岸会法要・彼岸寄席
9月23日(火)



秋彼岸寄席、三遊亭多歌介師匠

東京教区詠唱講習・検定会
9月11日(木)



東京教区詠唱講習・検定会

第63回念仏と法話の会
10月22日(水)

十夜法要・芋煮会
11月15日(土)





修正会

しゅしようえ

2015年1月1日(木)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

お雑煮

午前11時～ 1階 観音堂エントランス



※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。
修正会に参列頂いた方から優先的に
お雑煮の振る舞いをさせていただきます。
なお、数に限りがございますので予めご了承下さい。

(絵馬について)

新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬は、元旦のみ1軒に1体のお渡しとさせて頂いております。2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。2体目から1体千円でお譲り致します。

(曆について)

各檀家さまに1部同封させて頂きました。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。2部目から1部千円でお譲り致します。

新年によせて(修正会によせて)

お正月を迎えると、元旦に天下泰平・五穀豊穡・家内安全を祈って、法要を修するお寺があります。これを修正会、または修正月会しゅしようえともいい、新年最初の祈願法要として厳修されています。

修正会の名前の由来は、前年の良いことも悪いことも、南無阿弥陀仏のお念仏をとなえる事によって信仰の糧へと変化させる(修正する)法会、という説と、『正月の『修』法であるので修正会とする』という説など諸説あります。

この修正会は、当院でも年末に二年の煤を払い、実りの象徴となる鏡餅を、ご本尊さまにお供えして感謝の心を表し、元旦には本堂でお経をあげています。

さて、年末年始は特に、お寺にお参りする大変良い機会です。

一年の瀬にその一年の反省をし、年が明けたら新たな一年の計を立てる。そのためにも心安らぐお寺で、ご家族が一同にそろって阿弥陀さまの前で手を合わせ、普段なかなか話せないことを語り合い、お互いの思いをご家族で分かち合ってみるのも有意義ではないでしょうか。

菩提寺への参詣や、ご先祖さまのお墓参りは、お彼岸やお盆だけに限ることはありません。私たちが無事新年を迎えられたことを共にご本尊さまに感謝し、この一年が健やかに過ごせるよう、社会と人々の幸福を願って、元日にはご家族で菩提寺へ参詣致しましょう。

元旦に、ご家族皆さんで梅窓院にお参り頂きます事を一同お待ち申し上げます。

(法務部)

法要の中心となる導師、梅窓院では中島住職を筆頭に、状況に応じて何人かの僧侶がその役目を担いますが、その導師の左右に並び式衆と呼ばれる僧侶がいます。また、法要の前に荘厳の準備をする僧侶、導師のお世話をする僧侶、また式を進行する司式と呼ばれる僧侶などもあります。法要によって僧侶の人数が異なりますので、いつもこうした役割の僧侶が全員いる訳ではありませんが、これが基本になって法要が執り行われます。

さて、こうした僧侶が身につけるお袈裟ですが、

導師 <small>どんし</small>	七条袈裟 <small>しちじょうけさ</small> （または大師五条）
式衆 <small>しきしゆう</small>	大師五条袈裟 <small>だいにしごうけさ</small>
司式 <small>ししき</small>	大五条袈裟 <small>おおごじょうけさ</small>
役僧 <small>やくそう</small>	大五条袈裟

ということになります。

大師五条ですが、写真を見て頂くとわかりますように、五つの長方形が組み合わさった長く四角い袈裟で、肩から掛ける長い帯のようなものが出ています。実際に身につけた写真をご覧頂ければわかりますが、袈裟を身体に巻きつけるようにして帯を左肩にかけ正面まで回して留めます。また左肩のところでは袈裟が落ちないように衣に留めてあります。これが大師五条です。

仏具と衣

第3回 袈裟 その②

なられるお袈裟を紹介致します。

合って何人もの僧侶が座っていますが、してその法要中に特別な役割を果たすの導師が身につけるお袈裟と合わせての紹介が済むことになります。

大師五条袈裟



正面



背面

大師五条を身につけた西沢正彦上人

大五条ですが、大五条も五条です。五つの長方形が組み合わさっていますが、こちらは少々台形に近く、そして大師五条に比べるとだいぶ小さい長方形です。長い帯も出ていません。こちらは上から被るように身につけ、やはり左肩のところまで留めてあります。身体に巻きつけない分、動く時に邪魔にならず、また見た目もはつきり違います。

こうした大師五条と大五条は顕色けんしきといって金糸や銀糸のほか、色とりどりの糸で織られることが多く、梅窓院では同じ柄で、この大師五条や大五条を揃えています。また、今回ご覧頂いているのは冬の袈裟になります。一般社会でも衣替えがあるように僧侶の衣や袈裟にも衣替えがあるのです。ですから、初夏から初秋にかけては袈裟も生地が薄い、いわゆる夏用の衣を身につけます。衣替えの季節に注意して頂くと、その違いがわかると思います。

今回まで、七条袈裟、大師五条、大五条と紹介してきましたが、皆共通している身につけ方があります。お気付きになったでしょうか。そうです、どれも必ず右肩を出しているということです。

その理由については次回の単色のお袈裟を紹介する時に一緒にお話し致します。

浄土宗の

今回は皆さんが一番よくご覧に梅窓院の普段の法要で、左右に向かい。そうした僧侶が身につけるお袈裟、その僧侶が身につけるお袈裟です。第1回の。今回で普段の法要儀式でのお袈



衣と袈裟は左肩の上で留められています。「約束やくそく」と呼びます。



正面



背面

大五条を身につけた若麻績大成上人

大五条袈裟



(写真提供・島津法衣店)

梅窓院の寮に住みながら大正大学に通っていた学生の多くは全国各地にある浄土宗寺院の後継者でした。そして、その寮仲間が中心となって作られた梅真会。その会員は今でも梅窓院の各種法要や行事を支えて下さっています。今回は岩手県花巻市の鳥谷寺 上人にお話を伺いました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。さっそくですが、梅窓院に随身された時期からお話し頂けますでしょうか。

昭和38年から42年まで、そして44年に戻って47年までいました。都合7年もお世話になりました。

◆学生時代と卒業後ということでしょうか。

はい、卒業してすぐお寺に戻っても、小さいお寺で父が一人居れば法務は問題なく、副住職といっても何か職に就く必要がありました。ですので、もう少し東京に居るか、梅窓院を出てから三畳一間のアパートでバイト暮らしを始めました。

◆寝食の心配がなく、お小遣いまでもらえた梅窓院での随身生活から単身での生活となると大変だったのではないですか。

ええ、三畳間の家賃は月3千円、食事がついてるバイトを探してなんとか生活していました。

◆再び梅窓院に戻られたきっかけは。

後輩の 君と 君が訪ねてきて、先輩、今手が足りなくて僕たち学校に行けないので帰ってきて下さいと頼まれました。

◆戻られた時はどんな立場になられたのですか。

院代という立場でした。実際は方丈さん(真哉住職)が関わっていた一洗会という事務局の手伝いと法務全般、そして随身の面倒を見ることでした。

◆待遇をお聞かせ頂けますか。

随身の学生の小遣いが月3千円の時に2万円でした。

でも、学生が食費を浮かすために昼休みに学校から戻って来るのです。何もさせずに食べさせる訳にはいきませんから、境内の草取りをさせてそれに対してパンとコーラを買わせてきて彼らの昼ごはんにしていました。2万円の給料はそれで無くなりましたね(笑)。

◆面倒見が良かったのですね。

梅窓院で随身していると本当に良くしてもらえるので、自然と自分達も面倒見が良くなるのだと思いますよ。

◆なるほど。

特に田舎の裕福でない寺で苦勞してきた者にとっては東京のお布施は破格でしたからね。

梅窓院に入った年の夏、棚経といって檀家さんの家を訪れてお



寺本尊の前で中島住職と一緒に記念撮影。

経をあげるのですが、頂いたお布施の金額は住職に報告はしますが、すべて自分たちのものになりました。

3日間回って4万~5万円の布施を頂いた時には夢のようでしたね。九州から来た仲間は新盆のお宅の一軒の棚経で1万円の布施をもらい、多すぎてもらえませんか半分戻したという話もありました。

◆そうですね、東京という場所は特別な所だったのですね。

岩手花巻の棚経でのお布施は百円でしたからね。1万円なんて百倍ですよ。百軒回る分を一回の、しかも短いお経へのお布施ですからね。想定外どころか夢にも思わないことでした。

◆随身時代の思い出をお聞かせ頂けますか。

東京オリンピックの聖火ランナーを見たことが印象的でしたね。

昨年9月に亡くられました さん。その さんが梅窓院の前を通るところを見て、急いで競技場へ向かい、中には入れませんが、外でも聖火台が見えるところから点灯の瞬間をこの目で見ました。そしてブルーインパルスが夜空に描いた五輪のマークにも感動しました。

◆昭和39年の東京オリンピックですね。

はい、そうです。それと昭和40年にハワイから戻られた御前さま(真孝前々住職)のお酒の強さも忘れられません。

夕刊を届けた時、晩酌されていた御前さまから飲んでみろとジョッキを差し出されて、それを飲んだらなんと腰が立たなくなった。後で聞いたら、ジョッキの半分はウイスキー。甘くするためにガムシロップ少々、そして残りが日本酒だったそうです。

普段から飲み慣れていませんでしたが、まさか立てなくなるとは……。

◆真孝先々代、本当にお酒がお強かったのですね。

それと忘れられないのが梅窓院での餅つきですね。いろいろ寺回りの雑用をしてくれる方がいて、どこかで臼と杵をもらってきながら毎年年末に餅つきをしました。田舎ではやりますが東京のど真ん中で餅つきすることに驚きましたね。

方丈さん(真哉前住職)の思い出では方丈さんが出された「大^{だい}山^{せん}」というトンかつ屋さんでの手伝いですね。職人さんが夕方に戻った後、揚げるだけに準備されたトンかつを揚げていました。昭和40年代でハシでも切れるとんかつでしたから、方丈さんは先見の明がありましたよね。

◆そうでしたか。

なんだか、勉強に関わらない思い出ばかりだね。

◆いえいえ、むしろ貴重なお話でした。ありがとうございました。

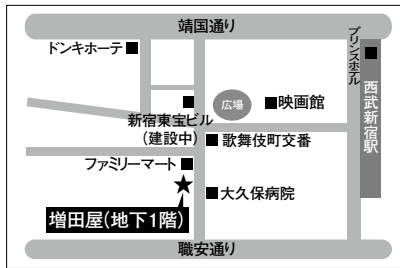
楽しそうに随身時代の話された 上人。
本当に色々な話しをして下さいました。

純石臼挽蕎麦 増田屋

はじめは江戸時代、ルーツを絶やす事なくのれん分けを続けてきた「増田屋」は東京を中心によく目にするが今回は新宿の歌舞伎町に店を構える増田屋さんを訪れた。

のれん分けの特徴は、仕入れ先やメニューに縛りがなく、店主が自由にできる所だそう。

「歌舞伎町にホッと息の抜けるような憩いの空間を」というさん(有)大久保増田屋 取締役社長・梅窓院檀信徒)の言う通り、こじんまりした入口から降りると外



営業時間／平・土11:00～23:45(L.O.23:15)
日・祝11:00～23:00(L.O.22:30)
ランチ 11:00～15:00
定休日／年中無休 席数／40席
住所／東京都新宿区歌舞伎町2-38-3 B1階
TEL／03-3204-4147



石臼を回す水車が目を引く明るく広い店内。



石臼で自家製粉したフレッシュなそば粉を使用した新そばせいろときのこ天ぷら990円。

の雰囲気忘れさせる綺麗な店内に驚かされる。

そして星野さんのこだわりは、もちろんメニューにも。人気の定番はもちろん、ラー油であるそば、薬味には梅も添えられている。季節メニューとして四季折々の素材の天ぷらを味わえる。ちなみに冬はアマダイの天ぷらだそう。

ランチは850円から楽しむことができ、組み合わせが選べる増田屋ランチ890円が一番人気だそう。宴会の予約もできる上、夜中までの営業と、歌舞伎町での落ち着いた飲み会、接待後の夜食など穴場的なおすすめの一店だ。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○下着シャツすぼつと着られ今朝は秋

◎入選

- 萩の磴辿りて坊の静かなる
- 好物の梨を供へて納骨す
- 太陽に両手ひろげるすすきかな
- 誰に似し五百羅漢や萩の道
- 宵闇の雲なく澄んで望の月
- 真東に太陽昇る秋彼岸
- 走り根につまづきにけり初紅葉
- 旧道は一方通行秋桜
- ちんまりと母に供へておけさ柿

◎選者詠

○半地下のバーへ夜寒の階おりる

大崎 紀夫

◎ワンポイントアドバイス

「罫雲ひとに告ぐべきことならず」の句で知られる加藤楸邨は、歩きながらよく句作したそうです。「歩行的思考」とか言っていますが、実際、歩きながら身のまわりの事物を見て句作をする、割とすらすらできるようです。頭の回転も歩いているときは早いようです。ということで、「歩行的句作」を多めに試みてみてはいかがでしょうか。

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月8日(木)を締切、平成27年3月発送の「春彼岸号」にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第五十七回

食は命

食養研究家 武鈴子

「おせち」は腎の養生食

冬になると太る…という経験はありませんか。寒いと外に出るのが億劫で、つい運動不足になりがち。それも原因の一つですが、そもそも冬はエネルギーを蓄える「充電期間」なのです。蓄えたエネルギーの多くは体温を保つことに費やされます。

自然界の生物に目を向けても、冬は植物も成長を休めて春の芽吹きをじっと待ち、動物たちは冬眠や休息期間に入ります。

東洋医学では、五臓と季節との関係について、冬は「腎」と密接な関係があり、腎の負担が大きくなる時期と教えています。腎は生命活動の源となる精力を蓄え、全身に活力を与えています。そのため腎が弱ると、生命エネルギーが衰えて、気力、体力とも落ちて、元気もやる気もなくなります。

腎はまた、膀胱、耳、骨をも管理しているため、腎の働きが衰えると、尿の出が悪くなったり、むくみ、冷え、貧血、膀胱炎、下痢、腰痛、神経痛、足腰の衰え、耳鳴りなどの症状が起こりやすくなります。

これらのことから、冬は腎の働きを補助する食べ物を積極的にとるのが冬の養生法。代表的な食品は昆布、若布、ひじきなどの海藻類。いわし、チリメンジャコ、アサリ、シジミなどの魚介類。黒豆、黒ゴマ、黒きくらげ、栗、ごぼうなどです。

とすると、お正月に食べる、「ごぼうの昆布巻き」「黒豆煮」「田作り」「栗さん」とん」などのおせち料理に登場する食べ物は、「元気」の元締めである腎を補助するための薬食なのですね。先祖が遺してくださった尊い教えをしっかりと受け継ぎたいと思います。

お檀家さんに伺いました

平成26年仏教講座にて
 (本林靖久先生「仏教法会—祈祷と供養—」)

「仏教が身近に感じられます」

お寺に来るのは葬儀や法要の時だけだと思っていましたが、梅窓院の「お寺を人々が集うコミュニティーの場」という趣旨に興味を持ち、そのひとつである仏教講座に参加しました。よく参加しているのは阿川先生と本林先生の講座です。お経の解説や、仏教が生活や文化に密接に繋がっていることがわかるので、仏教が身近に感じられて興味深いです。先日、友人の葬儀でカナダのバンクーバーに行った際に、ご僧侶が浄土宗のカナダの方でした。英語で話されているのですが、お経だけは日本語で聞き覚えのある無量寿経でした。阿川先生の講座でお経を読んでいたの、私も一緒にお称えることができました。

平成26年秋彼岸法要にて 「お彼岸をゆっくり過ごしました」

仕事の合間にはバイクで、来年十三回忌を迎える父の墓参りに立ち寄ります。今日は、秋彼岸なので母と一緒に参りました。家でゆっくり過ごしたあと出かけましたので寄席は見逃しましたが、美味しくお呈茶を頂きました。作法は身につけていませんが、気軽でいいですね。とても良い休日になりました。

行事予定

第64回 念仏と法話の会

2月9日(月)

時間 11時20分～(受付11時より開始)

お齋/別時念仏会/法話/茶話会

法話「念仏往生」を願う生き方

講師 佐賀教区 鏡智院 中村一之上人

発行/梅窓院
 発行日/平成27年1月1日
 発行人/中島 真成
 編集/青山文化村
 住所/〒107-0062
 東京都港区南青山2-26-38
 電話/03-3404-8447
 F A X/03-3404-8436
 ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
 E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
 題字/中村康隆元浄土門主
 総本山知恩院第八十六世門跡

平成27年

年間行事予定

◆修正会	1月1日(木)	
◆第64回 念仏と法話の会	2月9日(月)	
◆春彼岸会法要・寄席・物産展	3月21日(土)	
◆はなまつり	4月4日(土)～8日(水)	
◆団体参拝旅行 信州 善光寺	5月9日(土)～10日(日)	
※詳細は春彼岸号にてお知らせ致します。		
◆大施餓鬼会法要	5月16日(土)	
◆開山忌法要・能楽奉納	6月13日(土)	
◆第65回 念仏と法話の会	6月18日(木)	
◆盂蘭盆会法要	7月13日(月)	
◆秋彼岸会法要・寄席	9月23日(水)	
◆文化講演会	10月開催予定	
◆十夜法要・芋煮会	11月21日(土)	
◆M・ファン・デン・フック・ピアノリサイタル	11月開催予定	

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。

平成26年度 後期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講 題/羅什伝を読む

講 師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

●第3回…3月2日(月) 故国・亀茲にて



講 題/法然上人と法難

講 師/新井 俊定 先生(天然寺住職)

●第3回…1月30日(金) 貞慶と『興福寺奏状』その2



講 題/大乘仏教を読む

講 師/勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

●第2回…1月 8日(木) 普賢菩薩勸発品第二十八の教え

●第3回…2月19日(木) 『法華経』の教えとその意義



講 題/法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講 師/林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

●第1回…1月19日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —深心(下)—

●第2回…2月16日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —廻向発願心(上)—

●第3回…3月 9日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —廻向発願心(下)—



講 題/仏教民俗学入門(2)

講 師/本林 靖久 先生(大谷大学、佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)

●第2回…2月 6日(金) 仏教講 —血縁と地縁—

●第3回…3月27日(金) 仏教芸能 —踊念仏と念仏踊—



※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会の予定です。講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めて下さい。